



3. ヘルスコミュニケーション学関連学会賞 2023 年度優秀書籍賞 選考委員長講評

杉本なおみ
慶應義塾大学看護医療学部

受賞書著書と書籍

中山和弘 これからのヘルスリテラシー 健康を決める力. 講談社 2022 年

本書の最大の特徴は、専門性・学術性と、実用性や読みやすさ・分かりやすさの均衡である。

まず、ヘルスリテラシーを「健康を決定する力」と定義し、国内外の一般市民のヘルスリテラシーを比較し、ヘルスリテラシーと健康の社会的決定因子に関する根拠に基づく情報を提供すると共に、ヘルスコミュニケーション研究・実践に資する諸理論を紹介することにより、全編を通じて科学的な姿勢を貫いている。

さらに、シェアードディシジョンメイキングの概説や、リーダビリティ測定ツールやソーシャルメディア活用法の紹介などを通じ、実践にも有用な情報を提供している。またこれと並行して、新型コロナウイルス感染症や東日本大震災など、最新の社会情勢を踏まえた幅広いテーマを論じている。

その一方で、医療情報の信頼性を見極めるための手順（「か・ち・も・な・い」：「か」＝書いた人は誰か？；「ち」＝違う情報と比べたか？；「も」＝元ネタ（根拠）は何か？；「な」＝何のための情報か？；「い」＝いつの情報か？）や、医療に関する意思決定を行う際に考慮すべき要素（「胸に『お・ち・た・か』」：「お」＝オプション（選択肢）；「ち」＝長所；「た」＝短所；「か」＝価値観）について、記憶に残る頭文字語（acronym）を用い明快に説明すると共に、視覚に訴えるフルカラーの体裁を採用し、初学者でも楽しみつつ理解を深められる工夫がなされている。

これらの特徴を踏まえ、健康教育学や公衆衛生学、健康科学に関心のある学生・院生、実践家に止まらず、広範な読者に向けた価値ある情報源として重要な位置を占める書籍として本書を高く評価する。ヘルスリテラシー領域の書籍ではあるが、他領域における研究・実践との親和性も高く、当学会機構構成員全般が広く興味・関心を持ちうる内容であり、幅広い視点から深い理解へと導く非常に優れた成書として優秀書籍賞に値すると思う。

最後に、本賞選考にあたりご尽力を頂いた選考委員、順天堂大学 特任教授 福田洋先生（日本ヘルスリテラシー学会運営委員）、昭和大学 准教授 的場匡亮先生（日本ヘルスマーケティング学会運営委員）に心より感謝申し上げます。

以上